

平成 30 年 6 月 14 日現在

機関番号：30107

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2017

課題番号：26370930

研究課題名(和文) 移民企業家の自動車リサイクルビジネスにみられる地域的集積の形成と展開に関する研究

研究課題名(英文) Study on the Formation and Development of Regional Accumulation in the Automobile Recycling Business of Immigrant Entrepreneurs

研究代表者

浅妻 裕 (ASAZUMA, Yutaka)

北海学園大学・経済学部・教授

研究者番号：70347748

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,800,000円

研究成果の概要(和文)：自動車リサイクルビジネス(自動車解体業、中古部品流通業)では国内外で顕著な地域的集積(同業種集積)がみられる。国内については、膨大な国際リユース需要に対して、各国で需要が細分化されており、品揃えの深度を上げるために近接したディーラー間での売買が重要になった。また移民企業家が、エスニック・ネットワークを活用して海外現地需要情報と流通面で優位性を有した。近接立地した市場内での流通は、中古品の信頼性を担保した。シャルジャやバンコクといった海外市場でも移民企業家が主たるプレイヤーとなって巨大なマーケットを形成しており、市場内での活発な流通と、それによる在庫回転率の向上によるビジネスの発展が観察された。

研究成果の概要(英文)：In the automobile recycling business (automobile dismantling business, used parts distribution business), there is a remarkable regional accumulation both in Japan and foreign countries. About Japan, demand for used parts has been segmented in each country, and it has become important to buy and sell between dealers in accumulated area market. Immigration entrepreneurs also have advantages to get overseas local demand information and export and import of used parts utilizing ethnic networks. Distribution within the market that was located nearby secured the reliability of used parts. In overseas markets such as Sharjah and Bangkok, immigrant entrepreneurs became the main players and formed a huge market. There are active used parts flow there and the business development through the improvement of inventory turnover rate are observed.

研究分野：経済地理学・環境経済学・静脈産業論

キーワード：供給制約 情報の非対称性 エスニック・ネットワーク 集積利益 同業種集積 国際リユース

1. 研究開始当初の背景

日本は世界有数の中古車・自動車中古部品（以下、中古部品）の輸出大国である。また、貿易統計などから中古車（またそれに連動した中古部品）のグローバル流通が拡大していることも明らかにされていたが、この現象には移民企業家が深く関わっていることが知られていた。同時に、日本側や輸入国側において、彼らの地域的集積が見られることも知られていた。一方、学術的には、既存の産業集積研究に「情報の非対称性」や「供給制約」といった中古品特有の「財のタイプ」を考慮に入れた研究は行われてこなかった。移民企業家の地域的集積が見られるのは、この中古品の財のタイプに着目することが重要ではないかと考えられた。

2. 研究の目的

中古部品の流通に携わる移民企業家が集積して立地する経済的背景について、主として中古品が有する上記の経済的属性から解明する。同時に、日本発の自動車国際リユースにおいて、何故移民企業家が主要なプレイヤーとなっているのかを、歴史的観点も考慮して明らかにする。

3. 研究の方法

自動車解体業者の名簿の収集、GPS を用いた海外自動車リユース関連事業者の住所情報の取得、国内外でのヒアリングによる中古部品の国際流通の実態把握とその類型化、中古部品の国際リユースの歴史に関する業界の古老への聞き取り調査、統計資料の集計・推計による。

4. 研究成果

研究期間中に、自動車中古部品の国際流通の歴史的展開過程を把握すべく業界の古老へのインタビューや座談会を重ねた。結果として、以下のプロセスが明らかになった。

自動車解体業は、1920年代の黎明期以降、1970年代頃までは、廃車が多く発生し、また中古パーツの需要もある大都市中心部近傍に集積立地（同業種集積）する傾向があった。この市場は全国から発生する部品の「ハブ」としても機能した。大都市圏の中古部品ディーラーには、地方から多くの中古部品が流入した。これにより、市場では「品揃えの深度」が形成され、全国を対象としたマーケットが構築された。つまり、個別の部品に対する「供給制約」がある中で、多様な需要に対応し、「情報の非対称性」の点からは、取引の信頼性を高めるといった集積利益が発生していた。

1970年代後半からはFAXを用いた自動車中古部品販売のネットワークが広がりはじめ、1980年代になると、それがコンピュータネットワークへと昇華した。これにより、立地体系は従来の集積から分散傾向が見られるようになった。国内流通が中心であった時代、ネットワークの発達で、中古品の属性に関す

る集積利益が低減した。

一方で、1970年代末からは公害・環境対策として工業団地（臨海部）への集積、1990年代に入ると「エコタウン」への集積がみられた。これは、いずれも直接的にはマーケットメカニズムとは別の論理での集積といえる。これらは結果的に、行政コスト等の静脈産業（廃棄物処理・リサイクル）であるが故の取引コストの低減をもたらした。

研究期間の多数のヒアリングから、この産業に携わる移民企業家は1960年代から存在したことが明らかになった。その関与の態様は時期によって異なっていた。当初、海外バイヤー（移民企業家）による中古部品輸出は国内の自動車解体業者を「買い回り」することによるスポット的なものであった。また台湾、韓国、タイといったごく限定された国からのバイヤーであった。1990年代に入ると、解体業者に「常駐」し拠点として輸出するスタイルが一般化し、中古部品輸出が量的に拡大した。同時に、マレーシアや南アジアからのバイヤーがみられるようになり、地理的にも輸出範囲が拡大した。一方で日系の解体業者が直接貿易業に携わる動向も見られ始めた。また、1970年代後半から、本格的には1990年に入るところから、公害問題や都市開発による地価高騰を背景に、解体業者の大都市圏郊外部への展開があり、移民企業家もこれに連動する形で、同じ地域へと活動の拠点をシフトさせた。移民企業家の貿易業者としての独立が目立ちはじめたのもこの頃である。このようなプロセスを経て主として大都市圏郊外部における移民企業家の地域的集積の萌芽がみられるようになった。

2000年代に入ると、アフリカや南米からの移民企業家の展開、南アジアからの移民企業家の更なる増加がみられた。この背景には資源価格の低迷と廃棄物処理コストの増加に伴う使用済み自動車の「逆有償化」があった。2005年以降、自動車リサイクル法の施行とともに、自動車解体業は一定の設備要件を伴う業の許可を取得することが義務付けられた。依然として「常駐」スタイル（日系解体業者にとっての顧客）は重要な輸出方法であったが、独立する移民企業家（日系解体業者との競合）数も増加した。輸出国によって部品需要が異なるが、1台の廃車からは特定の部品しか生産できないという「供給制約」があるため、近接したディーラー間での部品流通の重要性が増した。また、業の許可を持たない移民企業家が、許可を有する移民企業家に解体実務を委託するようになり、地理的な近接性がより重要になった。ここでの移民企業家の優位性は、海外現地市場の需要情報取得や販路に有利なエスニック・ネットワークが構築されていることである。

なお、環境や地価の問題を背景として発生した大都市圏郊外部へのマーケットの移転は、結果的に、移民企業家のビジネスにプラスに働いた。徐々に普及した中古車オークシ

ヨンは国内発生源との関係が希薄な移民企業家にとって重要な供給源であった。大都市圏郊外部は、道路整備もあいまって、オークション会場や港湾とのアクセスが良好なため、輸出をそもそもの目的とする移民企業家にとっては格好の立地となった。

以上のプロセスを整理すると、移民企業家の立地は次の ~ の段階に整理できる。

1970年代後半まで：移民企業家は大都市圏に集積立地した自動車解体業者の顧客として輸出ビジネスに携わる。

1970年代後半から1990年代まで：ネットワーク化の進展による自動車解体業の分散立地と、従来と異なったメカニズムによる集積の発生。移民企業家はこれらの解体業者に常駐するスタイルを取る。大都市圏郊外部で独立する企業家も見られ、国際リユースに起因する集積への萌芽となる。

2000年代以降：中古車輸出の増大に伴う中古部品輸出の増大と、国内資源市況等を背景にした国際リユースの更なる拡大。より多くの国々からの移民企業家がビジネスを展開。国際リユースを背景とした地理的接近性の重要性が高まる。

このように、古くから日系解体業者の同業種集積がみられていたが、それらは中古品の経済的屬性を背景としたものであった。1990年代からの輸出先国の多様化、2000年代にかけての流通量の増大に伴い、輸出先国の需要に応じた市場内部の流通の重要性が高まった。取引の信頼性を担保する上でも、近接した業者間の取引は重要であった。また、移民企業家（個々の企業は零細である）がエスニック・ネットワークを活用して現地需要情報と流通面で優位性を有するようになった。以上が、国内市場で移民企業家による地域的集積がみられる理由である。なお、日系解体業者は、流通ネットワークが発達していることから、各地に大手企業が分散立地する形態となっている。

研究期間中には、タイやUAE（シャルジャ）等、日本と関係が深い海外の中古部品市場を調査した。詳細な報告は浅妻裕ほか(2017)で行った。バンコクとシャルジャでは、いずれも中古品の経済的屬性を背景とした集積が観察された。供給制約の点から、ディーラーがそれぞれ輸出国（日本）から特定の部品を大量に調達することは困難である。市場内の流通を介することにより、各ディーラーの専門特化、差別化となり、ヒット率が向上する。また、顧客は、中古部品の品質やスペックについて実物を見なければ判断できないということが少なくない。中古部品の規格化やインターネットを介した取引への萌芽はあるものの、相対取引が引き続き主要な方法となっており、中期的にはこれが続いていく。このような集積利益を求めて多数の企業が立地し、市場が維持されている。

中古部品市場は、ローカルを対象とするか、中継貿易を対象とするかの違いがある。シャルジャ市場は後者であり、世界的な中古部品売買の拠点となっている。日本をはじめ、欧州、大洋州からの中古部品が流通し、アフリカ、中央アジアなどからバイヤーが顧客となる。ここでは、スケールメリットが際立っており、市場内部での流通を経て、ヒット率の向上をもたらしている（クアラルンプール周辺でも同様の状況がみられる）。とりわけ単価が低い中古部品ではヒット率を高める（在庫回転率の向上）が極めて重要なのである。なおタイやシャルジャの企業家は、その多くが移民系である。日本など輸出国との間のエスニック・ネットワークが構築されており、安定供給と信頼性の担保となっている。

このように、国内同様、地域特化の経済、とりわけ中古品の経済的屬性に起因する集積が見られることが明らかとなった。なお、海外市場では一般的に集積の密度が極めて高い。国内では、集積地であっても、行政が整備した工業団地といった箇所以外では、一定範囲（例えば町丁目レベル）に点在する、といった立地体系を取っている。日本では当該ビジネスに解体作業を伴うケースが多く、広いスペースが必要であることをはじめ、都市計画や地権者との関係も関係していることが想定され、今後究明すべきポイントである。また、歴史的な立地体系の変遷については、ヒアリングや座談会、業界誌を用いた定性的なものであり、過去の住所情報の取得や、それらを活用した空間計量分析等により、定量的に本研究を検証する必要もある。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕(計8件)

浅妻裕、自動車リユース・リサイクルの経済地理学（大会記事）経済地理学年報、査読無、62、2016、113-116、https://doi.org/10.20592/jaeg.62.4_385

浅妻裕、日本における中古車輸出の歩み第1期・第2期を中心として（座談会）北海学園大学経済論集、査読無、62(4)、2015、223-225、<http://hokuga.hgu.jp/dspace/handle/123456789/2807>

外川健一、自動車リサイクル制度の課題、環境経済・政策研究、査読有、8、2015、92-95、ISSN1882-3742

浅妻裕・岡本勝規・外川健一・福田友子、自動車解体業の歴史にみる移民企業家の役割について（座談会）北海学園大学経済論集、査読無、63(1)、2015、41-60、<http://hokuga.hgu.jp/dspace/handle/123456789/2807>

56789/2882

浅妻裕・外川健一、北海道の自動車リサイクル産業史：組織化と国際展開を中心に（座談会）、北海学園大学経済論集、63(3)、2015、45-69
、
<http://hokuga.hgu.jp/dspace/handle/123456789/3027>

福田友子、在日パキスタン人移民のエスニック・ビジネスと越境する親族、三田社会学、査読無、20、2015、38-51

外川健一、自動車リサイクル法2回目の「見直し」にあたっての予備的考察、熊本法学、査読有、132、2014、99-131

福田友子、日本に生きるパキスタン人移民の社会適応 1980年代以降の南アジア系外国人排斥政策の流れの中で、日本の科学者、査読有、49(12)、2014、18-23

〔学会発表〕(計15件)

浅妻裕・外川健一、自動車リサイクルの国際化と関連産業の立地変容、日本環境学会第44回研究発表会、2018年6月23日~24日、三重大学

福田友子、Transnationalism and Pakistani and Afghan Migrant Entrepreneurs dealing Used Cars and Car Parts in Japan and the UAE, The Global Refugee Crisis: Mobile People under State Protection or Exploitation, Panel V: Asian Migrant Workers in the GCC, National University of Singapore, 2018 (招待講演) (国際学会)

浅妻裕、自動車リユース品の輸出に関する統計分析手法の現状と課題、平成29年度日本港湾経済学会北海道部会、2017年7月19日、クマシロ設計システム(札幌市)

福田友子、Sociological Research on South Asian Migrants and Halal Industries in Japan, Halal Marketing and Tourism Research Symposium (HMTRS) 2016, 2016年12月2日、University of Canterbury, Christchurch, New Zealand (国際学会)

福田友子、Transnationalism and Pakistani and Afghani Migrant Entrepreneurs in Japan and the UAE, 2016 ISA-RC31 "Migration in Turbulent World", 2016年11月26日、Doha Institute of Graduate Studies, Doha, Qatar (国際学会)

福田友子、Muslim Societies in Japan:

Migrants, Refugees, and Ethnic Businesses of Pakistani and Afghani, International Metropolis Conference 2016 Aichi-Nagoya, Japan, Workshop 18=D6, "Situation of Refugees and their search for Co-existence in the host countries II (国際学会)", 2016年10月26日、Nagoya Congress Center, Aichi, Japan

浅妻裕、日口経済関係の展望、第12回日口フォーラム、2016年10月14日~10月15日、金沢市(国際学会)

岡本勝規・浅妻裕・福田友子、地域社会における荷主と住民の共生 伏木富山港周辺の中古車輸出業者を事例に、日本港湾経済学会第55回全国大会、2016年9月8日~9日、北海学園大学

浅妻裕、北海道の自動車リサイクルの過去・現在・未来、北海道自動車処理協同組合総会、2016年6月27日、札幌市(招待講演)

岡本勝規、ヤンゴンにおける中古自動車・中古部品市場の集積と物流、アジア中古車流通研究会、2016年5月14日、京都大学

岡本勝規・浅妻裕・福田友子、中古車輸出の変遷と現状 阪神港を中心に、日本港湾経済学会、2015年8月28日、大阪商業大学

浅妻裕・福田友子、「環境産業」としての静脈産業の発展に関する考察 外国人・移民企業家との関わりに着目して、日本環境学会第41回研究発表会、2015年6月20日~6月21日、龍谷大学

岡本勝規、地方港周辺における中古車貿易業の集積 伏木富山港周辺を事例に、日本地理学会2014年秋季学術大会、2014年9月20日~9月22日、富山大学

浅妻裕、ロシアの自動車市場と日本車の現在、第11回日口フォーラム、2014年9月5日、ノボシビルスク国立交通大学(招待講演) (国際学会)

福田友子、パキスタン人移民のエスニック・ビジネスと越境する親族、三田社会学、2014年7月5日、慶應義塾大学(招待講演)

〔図書〕(計3件)

浅妻裕・福田友子・外川健一・岡本勝規、成山堂、自動車リユースとグローバル市場 中古車・中古部品の国際流通、2017、268

福田友子、Organization for Islamic Area Studies・Waseda University, Islamic and Multiculturalism: Islam and Global Perspective, 2016、100

福田友子、千葉大学大学院人文社会科学研
究科、ラテンアメリカと移民 日本・スペイ
ンからの視点、2015、99

〔産業財産権〕

出願状況（計 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況（計 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等
移民企業家の自動車リサイクルビジネスに
みられる地域的集積の形成と展開
<https://reuserecycle.exblog.jp/23888229/>
中古車輸出統計
[http://www.econ.hokkai-s-u.ac.jp/~asazu
ma/statistics/index.html](http://www.econ.hokkai-s-u.ac.jp/~asazuma/statistics/index.html)
いずれも未完成。今後も統計資料や業績など
支障なき範囲で掲載予定。

6. 研究組織

(1) 研究代表者

浅妻 裕 (ASAZUMA, Yutaka)
北海学園大学・経済学部・教授
研究者番号：70347748

(2) 研究分担者

福田 友子 (FUKUDA, Tomoko)
千葉大学・国際教養学部・准教授
研究者番号：40584850

岡本 勝規 (OKAMOTO, Katsunori)
富山高等専門学校・国際ビジネス学科・准
教授
研究者番号：80311009

外川 健一 (TOGAWA, Kenichi)
熊本大学・法学部・教授
研究者番号：90264118

(3) 連携研究者 ()

研究者番号：

(4) 研究協力者 ()